



# カリフォルニアの風

サンフランシスコ日本語補習校 令和2年1月号

## 新年を迎えて

日頃から本校教育に対し、ご理解・ご支援をいただき厚く感謝申し上げます。

新しい年、2020年（令和2年）を迎え、楽しく、安心・安全な学校をめざし、職員一同、新たな気持ちで頑張りたいと思っております。

冬休み明けの幼小部SF校の朝礼では、全校児童に「顔を上げて、目標に向かって努力しましょう。」とお話をしました。学習やスポーツ、生活の中での習慣等、どんなことでもいいですから、自分の目標をもち、それに向かって努力させたいものです。

一昨年に日本国内の小・中学生を対象にした、幸福感についての調査研究を行った結果、「今の生活を幸せだと感じますか。」という質問に対して、「はい」と答えた子どもの割合が、約90%に上りました。

そこで、この子どもたちの幸福感や満足感はどこから来ているのかを、成績や先生との関係、友だちや家庭状況、親子関係という視点から探った研究結果ができました。

現代の子どもたちは、人間関係づくりがあまり上手とは言えません。デジタル社会の中で「知り合いは多いが、友だちはいない」という子どもが増えています。授業や行事などで指導する際、子どもたちが良好な友達関係をつくり、満足度を高めるには、話し合い活動を積極的に行うことや、意見を言うだけでなく、併せて、しっかり聞く態度を養っていくことが大切です。

満足度の調査の中で、自分だけの部屋がある、自分専用のパソコンや携帯電話があるといった経済的・物質的に恵まれているよりも、親子でニュースを見る、家族で旅行に行くなど話題と時間を共有することのほうが、生徒たちの満足度は高い傾向が見られました。

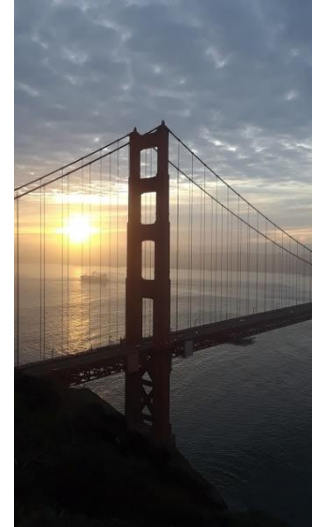
親子の会話においては小学生では会話の頻度が満足度に影響していますが、思春期になり会話頻度が少なくなる中学生でも、親がしっかり注意してくれる、自分のことをわかってくれるといったことが、満足度に大きく影響しています。

中学生たちは、親が自分のことに対して関心をもち、理解してくれることを望んでいます。

小学生では「よく話す」という豊かなコミュニケーションのある親子関係が大切ですが、中学生になると、自分の話をよく聞いてくれること、自分の良くないところは、しっかりと注意してくれることをさらに望むようになります。ですから、「あなたのことをよく見ているよ、話を聞いているよ」というサインを出したり、時には厳しく注意をしたりすることが必要になってくるそうです。



補習校の児童・生徒たちの長所は、規則を守ろうとし、人のために役立つとしようとする子どもが多くいることです。



補習校では日本語で日本のことを学習していくわけですが、これからもご家庭で保護者の皆様が外国で暮らしながら感じ考えたことを、子どもと交換し合うことで体験的な学びが生まれ、豊かな感性を育むことになると思います。

肌寒い日が続いている中でも、朝日や日没の時刻の移ろいに、春へ向かっていく自然の営みを感じる今日この頃です。学校ではカルタ大会や正月行事が行われ、春に向けた卒業・入学に関する催しが計画されています。春のジャンプに向かって、学年の締めくくりと新生活へのステップを確かなものにしていきたいと思ひます。